

トルコ サクランボの出荷が本格化へ

[EUROFRUIT 2024年5月22日](#)

トルコの早生のサクランボ産地で気温が高かったために比較的遅いスタートを切った後、大量のジラート0900品種が入荷するにつれて出荷シーズンが本格化へ

パルラフルーツ社ケリム・タネル会長によると、トルコのサクランボは今シーズンの収穫が早く始まったにもかかわらず、国内市場への出荷は遅いスタートとなった。(以下「」は同会長の発言)

「弊社は今週、早生のサクランボ品種で国内市場向けにゆっくりとスタートした。収穫は少し早めに始まったが、トルコの早生地域では高い気温と暖かい風のために花が影響を受けて着果が少なくなっているため、収量が非常に限られている。」

同会長によると、出荷量はまもなく上向くが、総出荷量は平均を下回ると予想される。

「たとえ全体の収穫量が通常より少ないと推定されるとしても、今後数日から数週間はジラート0900品種の収量が増えると予想している。この期間は暑くて晴れるとの天気予報が出ている。我々は、樹上の果実を利用する機会を得られるよう、収穫期間中の雨が少ない事を願っている。」

トルコのニュースサイト「レイリーニュース」によると、ドイツは2023年に9,550万米ドル相当のトルコ産サクランボを輸入した最大の輸入国であり、ロシアとオーストリアがそれに続いた。

エーゲ海地方生鮮果実・野菜輸出業者協会のハイレッティン・ウチャク会長は、「我が国は72万5千トンの収穫量を誇る、突出して世界一のサクランボ生産国であり、輸出量でも世界の上位4カ国に入っている。輸出で上位3カ国に入ることを目指している」と述べている。

ウチャク氏は次のステップは東アジアの国々、特に中国との植物検疫証明の合意について確認することであり、チリに倣って航空貨物の利用を拡大することだと述べた。同氏はマニサ県シェザデル地区のサクランボ園を訪問した際、今シーズンの目標は、12万トン、3億米ドル相当のサクランボを輸出することだと語った。

執筆者: トム・ジョイス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

欧州 オレンジ果汁価格が主産地の生産減少で大幅に上昇

[FreshPlaza 2024年5月24日](#)

オレンジ果汁の価格は、主要産地での生産量の減少により77%と大幅に上昇している。影響を受けている主な地域は米国フロリダ州とブラジルのサンパウロ州等で、これらを合わせると世界市場の85%を占めている。ブラジルはオレンジ果汁製造量の99%を輸出しており、米国と並んでオレンジ果汁の国際価格を設定する上で極めて重要な役割を果たしている。

この状況は、ヨーロッパでの価格の高騰と入手のしにくさにつながり、消費者に影響を与えている。冷凍濃縮オレンジ果汁の先物契約は、より広範な生産、輸出、包装のコスト上昇の傾向を反映して、ロッテルダムに到着した時点でトン当たり6,500ドルに高騰している。しかし、これらは価格高騰の主な要因ではない。

ブラジルの柑橘類保護基金(Fundecitrus)と米国農務省(USDA)の最近のレポートは、業界が直面している課題を浮き彫りにしている。前者は、ブラジルの収穫量が24%減少して36年ぶりの低水準を記録する見込みだと指摘し、後者は、米国の生産量はわずかに増加するが2年前よりも大幅に少ないと予測している。

干ばつとカンキツグリーンング病(黄龍病)は、フロリダ州とブラジルの両方の作柄に深刻な影響を与え、生産量の減少を悪化させている。さらに、メキシコやスペインなどの他の主要生産国は、干ばつ状態のために生産量が30%減少したと報告している。

出典: euronews.com